

基本指針に関する都道府県アンケート抜粋（情報基盤の整備）

【 現行の情報収集体制の課題について 】
 捕獲情報等の集計の迅速化にあたって、各都道府県で抱えている課題についてご教示ください。

W I S が未導入であること。エクセルの様式で対応している。

本庁及び出先機関で使用している情報集計のシステムが異なっていることから、集計に時間と手間を要している。

県内の 59 市町村・県出先機関 7 カ所から捕獲情報等を提出してもらい、本庁分と合わせて集計するのだが、それらがすべて揃う（提出される）までに時間がかかる。
 また、提出された捕獲情報等について補正箇所（鳥獣コードの鳥獣名と一致していない等）が多数見受けられ、その補正にも時間を要する。

集計に係る予算不足に起因し、職員の直営で集計を行うことになるため、時間がかかるうえ、他業務にも支障が出る。来年度以降は定額補助部分の限度額を増額されたい。狩猟者の確保を進めるうえで、その年齢構成や性別、属性等を分析する必要があることから、WISにおいて狩猟者の年齢（1 歳毎）、男女別、職業別、捕獲頭数別の集計ができるよう改善されたい。

・有害捕獲については、基本的に市町村の協力が必要となる。規模の小さい市町村になればなるほど担当職員一人あたりの業務負担は多く、捕獲情報の収集の頻度も大きく関係することになると思うが、捕獲情報等の情報の迅速な収集に対応してもらえない市町村が現在も複数存在しているため、システム運用について大きな課題になると考える。

鳥獣関係統計の集計に際して、様式 28、29 のコード入力や、様式 11、12 と様式 28、29 の突合等で時間がかかっている。それらについて、環境省から提供いただくエクセル様式に数式等を入れていただきたい。

集計に時間がかかるため環境省からの鳥獣統計を作成する依頼文を早めをお願いしたい。

○捕獲報告が年度末にかけて集中するため、データの入力作業に時間がかかってしまう。
 ○報告様式を統一しても入力作業については、職員が人力で行うことから、迅速化を図るためのシステムについては職員人件費の助成を要望する。

・迅速化については、手書きの報告を集計するため時間がかかることを前提にしており、特に課題を感じない。狩猟については、マークシートで報告する等ができると良いと思う。

【参考】 当県の情報収集体制の概要

- ・許可捕獲
- ・許可捕獲のうち、中心的な鳥獣の有害捕獲の権限は市町村へ移譲している。市町村からは、捕獲報奨金（イノシシ・シカ・サルなど数種が対象）に関する情報が年次単位で、許可事務に関する明細表の情報が年度単位で報告されている。報奨金の情報は詳細だが、許可事務に関する明細表は情報がまとまっており情報として使い勝手が悪い。H 2 8 から両者を整理したエクセルファイルを活用予定。
- ・狩猟捕獲
- ・登録証のほか、シカ・イノシシ出猟カレンダーの提出を求めている。登録証裏面の捕獲情報は県出先機関で取りまとめ 5 月末に報告される。その後、シカ・イノシシ出猟カレンダーをまとめて捕獲効率・目撃効率を算出するため委託業務に出し 10 月末頃報告される。

捕獲情報は、基本的に、
 【捕獲者→猟友会支部→県出先機関→県庁で集計】という流れで収集しており、時間がかかる。情報集計の迅速化にあたり、システムを末端で使用できる環境を整える必要があると考える。迅速化とともに、正確性や回収率を高める工夫が必要。

別添資料のとおり、本府では狩猟カレンダーにてニホンジカ等の目撃情報の提出を狩猟者にお願いしているが、国でそれらの情報を統一管理される場合は、報告様式をマークシート等にさせていただき、取りまとめ時のヒューマンエラーの発生を防止していただきたい。※本府はマークシートではないため、取りまとめに時間を要し、かつ、入力ミスケースも多い。

鳥獣関係統計の集計で、国の様式（様式28）と狩猟者登録証の裏面との並びが異なるため、作業効率が悪い。

県、市町村及び国をつなぐ集計システムの一元化がなされていないことが課題である。また、年度途中における捕獲等の情報を把握することができないため、各種施策に反映できていない状況にある（タイムラグが生じている）。

紙媒体で捕獲情報等を集計しているため、時間を要してしまう。

狩猟者からの登録捕獲報告及び市町村からの許可捕獲報告が遅滞し、環境省への報告期限までの限られた時間内には他の業務と並行で行っているため集計が困難である。

本県では、狩猟者や許可捕獲者から提出された狩猟者登録証等に記入された捕獲位置情報を、県出先機関や市町村の職員がデータ入力し、それを県庁で集計しているところであるが、一部に不正確なデータがあり、その修正作業にかなりの時間を要していることから、報告データ（紙ベース）とパソコンへの入力作業の正確化が課題と考えている。

その課題改善に向けて、登録証等に記入する捕獲情報の簡素化やデータ入力方法の改善等、人為的ミスの防止を図る必要があるが、具体的な取り組みにはいたっていない。

捕獲情報の収集については、比較的速やかになされているが、県機関内で専門性を有する職員が1名しかいないため、その捕獲情報（捕獲位置と捕獲数との整合性など）等の確認作業に時間を要し、確定が遅れがちになっており、データ整理、分析等の作業の軽減が必要である。

許可捕獲、狩猟捕獲が多い地域（自治体）においては、基礎データ入力作業が手入力作業となり、かなり業務の負担となっている。

許可捕獲に関する情報は市町村の役割が大きいことからシステムの導入に当たっては、市町村を含めた体制づくりをお願いしたい。

捕獲報償金等の予算措置の関係でリアルタイムでの捕獲実績が必要なため速報を集計しているが、鳥獣関係統計報告と集計は別々に行っており、整合性を欠くことが多く、二度手間にもなっている。

捕獲許可証、狩猟者登録証の返納の遅れ

捕獲実施者から提出される捕獲情報は紙ベースであるため、集計に入力の手間がかかるだけでなく、メッシュ番号の書き間違いも多い。

有害鳥獣捕獲頭数の増加に伴い、市町村の集計業務が多忙となり、県への報告が遅れる傾向にあり、課題となっています。

- ・データ数が膨大であることから、作業に時間を要する。
- ・入力作業を複数台のPCで行った際、WISに統合することができないなどシステムに問題。
- ・WISのシステムエラーが多く、その対処にも時間をとられている。
- ・エラー対応について記載されているホームページもあるが、大変見づらくエラー情報を探すことが難しい。

許可捕獲では、許可申請者からの捕獲報告が遅れるケースがあり、許可期間が通年など長期にわたるものほど顕著である。また、狩猟による捕獲についても捕獲報告が遅れるケースがあり、捕獲従事者（狩猟者）等の意識が低い実情がある。加えて、各市町村単位の集計、県出先機関単位の集計、県単位の集計と段階を踏んでいるが、統一したシステムの運用等がなく、全てエクセル様式で処理をしているため、その都度膨大なチェック作業が生じている。

鳥獣関係統計の作業は、有害鳥獣捕獲許可（2～5月）や狩猟免許試験・更新（6～9月）といった繁忙期には、実態として従事できない。

紙ベースの捕獲情報等のPCへの入力に時間を要している。

狩猟者からの情報収集と集約に課題。

ある程度正確な情報を得る必要があるが、狩猟者からの狩猟報告が不正確または報告が無い。また、県への提出が遅い。

狩猟者・許可を受けた者の問題：狩猟者登録証・捕獲許可証返納の遅れによる報告の遅延。記載内容（捕獲月日、メッシュ番号、捕獲場所、鳥獣の種類等）の不備に対する確認による遅延。

狩猟者から報告を受け取る県出先機関等：担当者による登録証返納とりまとめおよびデータ入力の遅れ（人員に対して入力作業量が多いため）による遅延。

許可捕獲（県から権限委譲）の報告を受け取る市町の問題：県に対して所定の様式による報告をするよう規定しているが、指定の期限までに報告をしない（データ入力を適宜行わない、また人員に対して入力作業量が膨大である場合など）ことによる遅延。捕獲頭数が増えれば増えるほど、入力すべきデータは増加するが、人員数は変わらない。

本庁での問題：データ集計作業における遅延（データの正規化作業に対する不得手、エクセル・アクセス等のソフトウェアの知識の不足）

- ・ 捕獲者からの情報の確度が低い。
- ・ 捕獲情報の提供は、捕獲者に無償で協力を依頼していることから、収集率が地域によって異なる。
- ・ 現在は、捕獲情報が収集できるのは年度末になるため、どこまで迅速化できるか分からない。
- ・ 紙で得られる情報をデータ化するのに膨大な事務量が必要となる。

大部分の有害鳥獣捕獲許可権限を市町村に移譲している現在、市町村許可分の捕獲情報の収集に時間がかかっている。

市町村→都道府県→環境省をオンラインでつなぎ、捕獲情報を集約するシステムを構築してはどうか。

捕獲情報は、基本的に、

【捕獲者→猟友会支部→県出先機関→県庁で集計】という流れで収集しており、時間がかかる。情報集計の迅速化にあたり、システムを末端で使用できる環境を整える必要があると考える。迅速化とともに、正確性や回収率を高める工夫が必要。

- ・ 野生鳥獣の捕獲数（許可捕獲＋登録狩猟）が増えており、入力作業が膨大となっている。

獣類許可捕獲件数10,579件（シカ18,347頭、イノシシ9,214頭）

登録狩猟件数 4,395件（シカ27,104頭、イノシシ7,972頭）

1,000件を超える入力が必要な市町において事務の効率を図るための人員削減の結果、従来に比べて、作業時間が増加しているため、マンパワーの充実のための財政的な支援が必要と考える。

- ・ 鳥獣関係統計の捕獲等データについては、市町村にExcelシートに集計するようお願いしているが、捕獲報告の原本や入力データの転記ミスが多いため、集計シート自体に入力データの誤記等を即時にチェックする機能（関数・計算式等）を組み込んで対応できないか検討する必要がある。

出猟カレンダーへの記載情報の不備が多く、どのように普及させるか苦慮している。

【例】捕獲場所が海上、生息域でない場所での鳥獣の捕獲、カモ・カラスのような漠然とした鳥獣名の記載等。県のカレンダーの記載情報が複雑で分かりにくいという欠点もあると思われる。

- ・本県では、捕獲許可申請手続きを県下全市町に権限移譲している。
- ・市町担当課においては、捕獲許可に対する報告取りまとめのほか、特措法に基づく報告取りまとめも行っており、データ整理に多大な労力及び時間を要している。
- ・更に県の段階では、市町より報告されたデータの整合確認作業に多大な労務を裂いている状況。
(欠損項目の補完等)
- ・また、本県ではイノシシ等の有害捕獲による件数が非常に多く、権限委譲した市町において捕獲に関するデータ収集が困難となりデータ収集面での課題を抱えている。

今の集計方法だと以下の理由等より、迅速化は厳しいです。

- ・市町村や出先機関からの提出の遅れや報告内容の確認(修正、追加の提出)により時間がかかる。
- ・(担当の技量がないだけかもしれませんが、)WISシステムが難しい。等